

第2回佐賀市総合・地域分科会 議事録

◆ 日時

令和6年7月11日（木）10:00～12:00

◆ 会場

ホテルマリターレ創世 佐賀 3階 グラツィアホール

◆ 出席委員（敬称略、五十音順） ※◎は分科会長

小城原直、鳥井智子、野田直子、林正博、福成有美、宮城亮、宮崎陽治、◎山下宗利、山田健一郎、渡島隆章

◆ 欠席委員（敬称略、五十音順）

野中明

◆ 事務局

片渕市民生活部長、筒井地域振興部長、志波政策推進部副部長、渡辺広報課長、南雲国際課長、白濱企画政策課長、藤本行政マネジメント課長、橋本男女共同参画課長、福田都市政策課長、岡協働推進課長、江頭スポーツ振興課長、小林歴史・文化課長 外

◆ 傍聴者

0名

◆ 議事要旨

1 開会

《説明》

○市民説明会の開催結果に関する説明（事務局）

2 議事

政策「基本構想」「文化・スポーツ」「コミュニティ」「行政経営」について

(1) まちづくりを進めていく上で大切にすべき佐賀らしさについて

○分科会長

前回の分科会で、野中委員から佐賀らしさに関する意見をいただいた。まずは基本構想に関連し、この意見を踏まえてご自身の考える佐賀らしさがどのようなものか、ご共有いただきたい。

○委員

佐賀らしさを佐賀に求めるものだと捉えて考えた。佐賀に求めるものは美しさである。佐賀市はすでに美しいまちだと思っており、特に豊かな自然と人の心が美しいと感じる。道の駅大和のそよかぜ館を訪れた際、人の手が加えられていない自然体な景観に魅力を感じた。このような飾らない自然や、誠実さ・まじめさ・絆を大切に作る心といった飾らない人柄があるのが佐賀市の良さだと思う。

また、女性にやさしいまちになってほしいと思っている。男性の割合が多いと女性は発言しにくくなる傾向にあり、男性の視点で考えがちになってしまうが、女性が主流で進める分野を設けることや、標語や川柳など人の目に触れる場所で女性が活躍するまちであることを示すことなどによって、女性が参画しやすいまちにできると良いと思う。

○委員

佐賀市は歴史・文化が素晴らしいと思っており、人の大切さや災害に対するレジリエンスの重要性も感じているが、特に、こどもに関する施策を先駆的に取り組んでいるという印象と、市民が主体的に動き、それを行政が後押ししているまちだという印象がある。商店街やNPOの活動などをはじめ、団体や市民が協働してまちづくりを推進しており、結果、市民の自力が高まっていると感じる。また、他自治体と比較しても、市民と行政が良い意味で近い。市が合併で縦に長くなった分、地域間のつながりを強化していく必要はあると考えるが、市民協働が重要になってきている社会で、市民が市民を支えている点は佐賀市の素晴らしいところだと思う。

○委員

佐賀らしさの情報発信について、佐賀は自身の魅力を表現することが苦手な印象がある。バルーンやひなまつりなど、イベント時には一時的に盛り上がるが、短期間では経済効果や人の流入にも限りがある。常設的なものを活用し、発信できると良いのではないか。県都であることを活かし、例えば近年売上が低迷している有田焼や唐津焼などの焼物を扱うアンテナショップのような施設をつくって、定期的な陶器市を開催するなど、佐賀県の文化を発信する場所を佐賀市に作ったらどうか。例として、徳島県の大塚国際美術館には陶器で作った絵画があり、年間42万人が訪れている。

○委員

以前は水と緑のまちと言っていたが、近年は水がなく、非常に汚れている印象がある。長崎街道が残っていれば良かったが、エスプラッツができ、川も汚れたままに

なっていると感じる。

子育てのしやすいまちだという印象があるが、自治会長の女性の割合がかなり低く、現在 661 人が活動しているが、女性はそのうちの 35 人程度である。子育ての悩みを相談できるという観点からも、女性の割合を増やすべきであると考えており、組織内で要請しているが、なかなか増えない。まちづくり協議会には女性が増えているが、自治会長には女性が 5%程度しかいないため、より発展的な構想が必要だと考える。

○委員

佐賀らしさを細かく、明確に定義する必要はないと考える。ぼんやり、ふんわりしたものが表現されていれば良いのではないかと。佐賀らしさを強調しすぎると、らしくなければ排除されるといった雰囲気がでてしまうので、あまり行政が佐賀らしさを強調しすぎない方が良いのではないかと考えている。

○委員

県外から来ている身として、食事は全国的にもレベルが高い印象がある。またそれ以上に、他地域と比較し、人々が地域の活動に熱量をもって積極的に参加している印象がある。地域に対する自信や誇りを感じる。

○委員

豊かな自然をもう少し有効活用できないか。水が汚いと言われるが、以前と比較すると、近年は下水道の整備によってきれいになってきている。一方、それによって水が少なくなったため、バランスを取れると良いと思う。また、嘉瀬川ダムなどを活用できれば良いと考えている。

○委員

DX 推進の業務で佐賀市と関わっているが、行政において、データ連携など先進的な取組に挑戦している印象がある。県に頼るのではなく、自分たちで考え、作り上げていく姿勢を感じる。市民においても、IT を活用して自らまちを良くしていこうとしている団体が以前からあると認識しており、福岡と並んで注目される取組が推進されているまちだと思う。総合計画に書かれている挑戦し続けていくという姿勢にも納得ができる。

○委員

明確な佐賀らしさを一言で表すことは難しく、佐賀らしさはこれだと明確に決めることは良くないのではないかと考えている。将来像のリード文で各分野における

佐賀らしさはすでに示されているため、その上での佐賀らしさを考えると、新しさや外から入ってくる人を受け入れるやさしさのあるまち、受容のまちだと思う。また、まちだけでなく、人とまちが両方元気であってほしいという願いがある。市民がさらに主体的に動くことで、まちも元気になっていくと思う。

○分科会長

それぞれで捉え方が異なるため、2つ3つの佐賀らしさでまちづくりを進めているものかどうかについては疑問であるが、個人としては、県都でありながら非常にコンパクトであることが佐賀らしさだと感じている。自然が豊かで、それぞれ特徴をもった地域がコンパクトにまとまっているため、それぞれに適切なまちづくりを進めていくことができれば、暮らしやすいまちになるのではないかと考える。

また、市民の活動が活発であるという佐賀市の印象や、女性の役割を重視するべきであるという意見に賛成である。

今回出された意見については、整理した上で改めて提示したいと思うが、事務局としてはどうか。

○事務局

いただいた意見をもって基本構想将来像への反映を検討し、次回の分科会にてお示ししたい。

(2) 前回の分科会で出された意見について

《説明》

○前回の分科会で出された意見に対する対応方針について説明（事務局）

《意見交換等》

○分科会長

ただいま、前回の分科会で出た意見に対する対応方針について説明が行われた。この内容について、ご意見、ご質問があれば伺いたい。

<意見なし>

(3) その他の質問・意見について

《意見交換等》

○分科会長

前回の分科会後に皆さまから寄せられた質問・意見について、意見交換を行いたい。

○委員

素案 P. 18 の人口減少についてのページが突然コラムと位置付けられていることに違和感がある。コラムとしてではなく、単に一つの項目として置いて良いのではないか。

○事務局

趣旨を踏まえて整理する。

○委員

素案 P. 25 の将来像のフレーズを、「どんな人も」から「誰もが」に変更するべきではないか。「どんな」という表現が曖昧であると感じる。

○事務局

ご指摘の通りであると考え。いただいたご意見の方向で整理を進める。

○委員

素案 P. 56 の SDGs 関連表の「1 貧困をなくそう」について、コミュニティの取組のうち、自立した生活を支援するという項目が該当するのではないか。自立した生活の支援が貧困をなくすことに繋がると考える。

また、SDGs 関連表の「11. 住み続けられるまちづくりを」については、市の政策すべてに関連する項目であり、住み続けられるまちづくりを目指して施策を進めるものであると考えるため、全政策が該当するべきだと思う。

○事務局

指摘いただいた方向で整理を進め、次回の分科会で回答する。

○委員

P. 39 「3 文化・スポーツ」の、「2040 年に目指す市民等の姿」2 の主なポイントについて、文化芸術活動の文言が必要だと思うので、2 点目を「市民が文化を身近に感じ、文化芸術活動へ参加すること」に修正してはどうか。また、3 点目を「文化の保存や継承活動が活発で、市民が誇れる歴史を生かしたまちであること」に修正し、保存継承と歴史をまとめた方が良いのではないか。

○事務局

文化は範囲が広く、芸術活動、伝統芸能、生活文化、文化財など全てを含めて文化

芸術としているため、3つの主なポイントを掲げる上で、言葉の整理が必要だと感じている。指摘いただいた点を踏まえ整理を進める。

○委員

P. 39「3文化・スポーツ」の、「2文化の魅力を高め未来へ」について、②を「文化が持つ多様な価値や魅力について、最新技術を取り入れながら分かりやすく発信し、伝統文化の保存・継承に努めます。」、③を「市民が様々な文化に親しむ鑑賞や体験・発表の機会を提供します。」に修正した方が良いと考える。

○事務局

②については、文化そのものに本質的な価値があるが、社会的・経済的な価値もあると考え、さまざまな形で魅力を発信していきたいという思いがある。その中で、伝統文化の保存・継承に関するご指摘をいただいたと認識しており、先ほどと同様、文化の言葉の定義を整理する。

③の文化に触れる機会についても、同様に整理を進める。

○委員

P. 47「7コミュニティ」について、「2040年に目指す市民等の姿」1の主なポイントについて、「市民等が主体になる」点に関し、主体になっていく過程では、市民活動や地域の困りごとを「知る」、活動を「手伝う」、活動を自分で「たちあげる」、勝手に主体同士が「つながり合う」といった動線が重要だと感じている。

計画内容の修正が必要だとは考えていないが、これらの動線がより有機的につながり、行政側からマッチングするのではなく自ら連携を発生させる環境をどう作っていくかが重要だと考えている。この導線づくりをどう設計しているのかがもう少し市民に伝わりやすくなると良いのではないかと。

また、この点は「10行政経営」の「自分事」化と重なると感じているため、この点の連携についてもどう考えているのか気になった。

○分科会長

前回の分科会後に寄せられた意見・質問は以上である。このほかにご意見等ある方がいれば伺いたい。

○委員

P. 42「4経済・観光」の「3ここにしかないモノ・コトが集まる「まちなか」への進化」に記載されている中央大通り再生計画に関わっているが、その会議のなかですごく良いと思ったのが、「佐賀の次世代の成長とともにある中央大通りの実現」

と掲げられていたこと。まちなかで次世代人材を育成していくというビジョンに共感している。④ではさまざまな世代と表現されているが、次世代人材をまちなかで育成し、その人材が地域で仕事をしていくという流れが作れたら良いと思っており、そのような観点がもう少し計画に反映されても良いのではないかと考える。

○委員

P. 48「7 コミュニティ」の、「1 みんなが主役のまちづくり」について、佐賀市の市民活動は全国的にも評価されている点であるため、計画に明記されているのは良いことだと思う。

○分科会長

次に「文化・スポーツ」の分野について、意見交換を行いたい。

○委員

スポーツに関し、プロスポーツの社会的効果と経済的効果が注目され始めているため、観光や経済の分野でも取り上げてほしい。今はバルーンが観光の中心となっているが、プロスポーツも近年盛り上がってきており、観光や経済にも波及する分野であるため、他の分科会でも取り上げていただくことをお願いしたい。

○委員

文化施設の整備について、市民会館等の施設とは別に、どんどんの森などを活用した、文化・観光施設の整備を進めてはどうか。どんどんの森は敷地が広く、壮大な景観もある一方、市民の集う憩いの広場となっている印象は薄く、もっと観光資源として有効活用すべきだと考える。都市開発が進む中、これだけ広い公園がそのまま残っているまちは珍しいと感じており、もっとPRしても良いと感じている。また、周回道路があることで施設の機能を毀損していると感じる。道路を広場にし、人が集えるようなスペースを作って展示会などを開催してはどうか。また、佐賀の七賢人や葉隠は全国に誇れる佐賀の文化であるため、古い町並みなどととも有効活用し、もっとPRを進めても良いのではないかと考える。

○委員

スポーツ振興に関し、県のSSPなどと連動して進められたら良いのではないかと考える。その中の視点として、佐賀市は障がい者スポーツが盛んだが、資金面などで活動の維持が難しく、活性化しきれていない。SAGA2024以降のスポーツ文化のあり方についても目を向けた方がいいのではないかと考える。また、市としては学校や企業も対象として位置付けているが、運営が大変な中で活動を継続しているスポーツ団体などもあ

り、どう支援していくかが重要だと考えている。計画にそれらの観点も含まれていると良いのではないか。

○委員

スポーツに関し、プロスポーツチームのホームタウンであるという点を活用すべきである。プロ選手の出前講座を実施し、選手から子どもたちへスポーツを教えてもらうことなどができれば、スポーツ文化の裾野が広がっていくと感じる。

○委員

「3文化・スポーツ」において、少年スポーツの取組にもう少し踏み込んでほしい。小さいころからスポーツをしていれば、大人になってもスポーツに関わりやすくなる。子どもたちが参加しやすい施策が必要だと感じている。

○委員

文化に関し、七賢人や葉隠の精神などは、男性中心の考え方である。市内の男性の銅像も怖い印象があり、夜は女性1人では歩きにくいと感じる。女性が夜に1人でも歩けるまちになってほしい。

子育てしやすいまちをPRするのであれば、偉大な歴史上の人物を押し出す際に、彼らを支えた女性たち、という視点で、女性の活躍を社会全体で捉えていく必要があると思う。普段は陰に隠れがちで、世間でなかなか認められていない家庭内の女性の努力にも焦点を当てるべきだと感じる。

○委員

名尾和紙など、地域で推進している伝統工芸などは佐賀市を代表する文化だと考えているが、計画のどこに明記されているか伺いたい。

○事務局

P.39「3文化・スポーツ」の文化芸術に伝統工芸が含まれているが、文化は幅が広く、現在の表現では表しきれないと感じたため、言葉の定義を整理する必要がある。

○分科会長

次に「コミュニティ」の分野について、意見交換を行いたい。

○委員

河川清掃の担い手が少なくなっており、地域の企業を巻き込んでいくことは難し

いが、今後重要になっていくと感じている。初めは少人数でも良いので、少しずつ共感して参加してもらえるようになると良いのではないか。また、学校とも協力し、地域一体で進めていく必要がある。

○委員

地域コミュニティの人材不足対策は急務であり、お祭りの後のごみ拾いボランティアなども少なくなっている現状がある。学生だけではなく、企業へのアプローチを、市と一緒に進めていけたら良い。

○委員

P.48「7 コミュニティ」の「1 みんなが主役のまちづくり」について、④、⑤は重要であり、課題に感じている部分である。この分野について、今取り組んでいることがあれば伺いたい。

○事務局

最も人材が足りないのがまちづくり協議会であり、高齢化が進んでいる。まちづくり協議会はさまざまな地域団体を連携させ、地域の課題を地域で解決するための取組を進めているが、各校区のさまざまな取組を共有し、つなげていくことが行政の役割だと感じている。また、これまでご指摘があった通り、企業をどう取り込んでいくかがポイントであり、企業もCSR等で活動したい意欲はあるものの、つながる術がないということもあるため、行政側で機会を設けていきたいと考えている。

○委員

自治会や協議会など、名称に硬い印象があると、若い世代は楽しくなさそうだと感じてしまう。公民館・自治会の活動という労働感や義務感が強く、参加しなければならないものだという意識になってしまうことで自ら参加したいと思う人が減っているのではないかと考えている。例えば「スポーツ草刈り」、「スポーツクラブ」など、表現の工夫によって参加者が増えた例もある。言い方によって活動の印象が大きく変わると思うので、楽しく参加できるような工夫ができると良いのではないか。

○委員

まちづくり協議会ができ、各組織が連携した横断的な活動を推進したところ、参加しやすくなったという声があったため、このような体制が広がれば良いと思う。地域づくり交流会などを実施し、地域間で情報共有し合って進めていくべきだと考える。また、若い人を取り込むためにも、早いうちから活動に興味をもってもらい、

意欲のある人が継続して参加できるような取組が必要だと考える。

○分科会長

最後に「行政経営」の分野について、意見交換を行いたい。

○委員

行政経営が計画に入っている自治体は少ない印象があるので、市民に寄り添う姿勢が感じられて良いと思う。市の規模で見れば行政と市民の距離が遠くなりがちだが、DX 推進などで効率化をしながら質の高い行政運営をうまく進めている印象がある。引き続き行政と市民の友好的関係維持を実現する取組を行っていただきたい。

○委員

近所に住む市の職員は多いが、顔を合わせたことがない人が多く、行政と市民の関係構築のためにも、市の職員に、地域の活動に積極的に参加してほしいと思っている。

○委員

熊本市の人材育成に関わっているが、熊本市の人材育成計画には職員の基本理念と基本姿勢が明確に示されており、職員の指針として浸透している。指針の設定は自治体によってさまざまだが、わかりやすい指針があることは良いことだと感じており、明言していけばバックキャストにもつながると思っているため、佐賀市にも同様の取組があるのであれば、総合計画の中にも反映させていけたら良いのではないかと考えている。

○事務局

佐賀市には人材育成基本方針があり、職員で議論を重ね、令和3年に全面的な改訂を行った。現在は、「市民に信頼され、自ら考え行動する職員」を職員像に掲げている。市の職員が住民と関わっていく上で、信頼される仕事をする事と、主体的に行動することが重要だと考え、設定した。職員の資質の向上は行政サービスにおいて重要な観点だと思っている。

○委員

P. 58 のSDGs 関連表の「5 ジェンダー平等を実現しよう」に、行政経営が含まれていないことが寂しいと感じる。女性が活躍しやすい環境を作ることが重要だと考えており、民間企業ではなかなか難しい現状もあるが、公務員こそ実現させやすいの

ではないかと思っている。計画にも具体的な表現を追加するなどして、まずは行政から積極的に進め、市の職員が働きやすい環境にいるということが重要だと思う。

○委員

行政が主体となって女性が活躍できる社会を明確に示す必要があると考える。少子高齢化の問題があるが、子どもを産むのは女性であり、高齢者の面倒をみているのもほとんど女性であるため、女性にしかわからない観点を掬い上げていってほしいと感じる。例えば、管理職を20%女性にするなどの指標を設定することで、権利が生まれ、声を上げやすくなると思っている。

○委員

P. 47「7 コミュニティ」に関して、アメリカの学校ではボランティアがポイント制で運用されており、そのポイントでメリットが得られる仕組みとなっている。条例等で規制を増やすより、ボランティアに参加したくなるような仕掛けを作っていくことが重要なのではないかと考える。

○委員

先ほどの委員の意見に対し、良い考えだと思う反面、ボランティアにメリットを与えてしまうと、ボランティアの精神に反するのではないかとの懸念もある。それより、ボランティアとは何かを学ぶ教育の徹底など、ボランティアを前向きに捉えられるような教育環境を佐賀市独自で実施することができれば良いのではないかと思う。

○委員

ご指摘の通り、アメリカはボランティアへの参加が当然だという概念があるため、主体的な考え方が基本になっているが、日本はボランティアに特別なイメージがあり、難しいと思う。そのため、初めからボランティアに参加できるような教育ができれば良いと思う。ただ一例として、ボランティアの位置付けを変えるきっかけになればと思い紹介した。

○委員

行政経営に関し、行政と市民がともにもつキャッチコピーや合言葉があると活動しやすいと思う。P. 53「10 行政経営」の内容が、行政からの一方通行に見えるため、もう少し市民の役割や参画する隙間が見えるようになっていると良いのではないかと思う。現状では市民がサービスを受ける側だという印象が強いが、市民としても参加したいと思っており、参加の責任もあると思うので、市民の役割をもう少し

し反映させてほしいと思う。

○委員

公共施設を無償で貸すのは時代遅れだと感じる。税収も減る中、公共施設の経費は市の補助ではなく受益者負担で賄えるようにしなければならないのではないかと考えている。公共施設は維持費がかかるため、それを公共施設で稼げるようにしなければ、経営が成り立たない。20年前から言われているが、変わっていない。好景気の時代からは状況が大きく変わっているため、早急に検討してほしいと思う。

○委員

かつては公共施設を中心に人が集まり、経済が回っていた印象があったが、公共施設が次々と移転され、人の流れが途切れたことで空洞化が起こったのではないかと考えている。移転した後の地域の活性化を考えるなど、総合的に検討するべきだと考える。跡地を公園にするのも良いが、経済効果は薄い。

佐賀市中心部に文化施設がないため、佐賀市交通局の有効活用を提案したい。公共施設の有効活用によって、佐賀市の施設価値を大きく高めることができ、中心市街地の活性化にもつながると考える。

3 閉会